

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス キラキラ倶楽部		
○保護者評価実施期間	2025年1月17日		2025年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2025年1月17日		2025年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども・保護者ともに、当事業所に対する満足度が高い。	子ども・保護者ともに積極的にコミュニケーションを図り、情報収集や相談しやすい環境づくりを行っている。そこから得た情報やニーズを支援計画やプログラムに反映している。	保護者の交流会や勉強会など、より当事業所の魅力を知ってもらえる機会を作っていく。
2	適切な人員の数が配置されており、活動における内容や場所なども整備されている。	様々な活動への参加・選択ができるような人員配置や施設外でも活動できるよう工夫しプログラムを実施している。	施設内でもスペースを分けたり、同一のプログラムでも同質性の集団に分けたりと細やかな環境設定が行えるよう、ハード面も含めた検討が必要。
3	職員間で情報共有が行えている。	業務開始前や終了後には情報共有を行い、必要に応じ、支援方法について再考している。	カンファレンスの実施や障害特性や支援方法についての勉強会などを定期的に開催する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流や家族研修の機会、活動報告や地域との交流などの機会や発信がすくない。	現状で誰がその役割を担っていくのかという話になった際、業務負担増となる可能性が高い。	現在の業務を見直し、整理したうえで業務負担増とならない工夫が必要。SNSの活用など、まず出来そうなものを行っていく。
2	非常時の対応について周知がされていない。	契約時には説明を行っているが、それ以降は改めて説明する機会がない。	年度変わりや個別支援計画の更新時に再度説明などを行う。
3	スペースの拡大や構造化、バリアフリー化などが進んでいない。	ハード的な要素については法人全体で考慮される事案であるため、実施困難なことも多い。構造化も現在の状況に対し適切であるか再評価する機会がない。	ハード的な部分については適宜法人責任者とも協議を重ね、必要であることを訴えていく。構造化については、これを機に現在の環境設定の見直しを行う。